

北海道薬科大学  
学長  
渡辺泰裕



2015年、札幌市にキャンパス移転。  
北海道工業大学 保健医療学部と  
連携し、医療職としての自覚を育む

2 006年度に6年制薬学教育が始まったことで、創薬研究者を目指す課程と薬剤師を養成する課程が混在していたそれまでの状況が一変しました。6年制薬学教育⇨薬剤師養成になり、本学は6年制のみ選択しました。

薬剤師になるとは医療職に就くという事です。そのためには医療人としての自覚をもつ教育が必要になります。それは卒業すれば終わりではなく、生涯にわたってサポートすべきもの。本学では08年に「生涯研修・認定制度認証機関」の認証を受け、多数の講座を開講し、卒業生を中心とした多くの薬剤師に研鑽の機会を提供してきました。医療過疎という北海道が抱える問

題に対して、医師を増やすというのは現実的な解決法ではありません。これまで以上に薬剤師が地域に入り、軽度な身体の不調は医薬品で処置するというセルフメディケーションを促すことが大切です。医薬品のネット販売が実施されようとしているなか、薬剤師には、薬を販売するだけではなく、患者さんに接し相談にのるなど、地域の健康を支える役割が求められているのです。

本学は15年度、札幌市手稲区の前田キャンパスに移転します。同一学校法人の北海道工業大学（14年度より北海道科学大学に校名変更）と同じキャンパスであり、同大学に新設、再編される保健医療学部（看護学科、理学療法学科、義肢装具学科、臨床工学科、診療

放射線学科）と連携することで、チーム医療の一員としての素養を磨きます。他職種連携教育を進めるにあたり、早速次年度から、現場の教員同士で議論し、教育の中身を作っていく共同FDを行いたいと考えています。また、移転後は、初年次教育や教養教育についても積極的に連携し、単科大学の規模の限界を超えていくつもりです。

学生にとっても、異なる志向をもつ仲間との交流や、大学祭などが大きな規模で行えることなどキャンパスを共にすることの利点は少なくありません。周辺環境も変化するため、地域交流・貢献活動がより活発になり、医療人として大切な「心」が育くまれることを期待しています。

薬学教育モデル・コアカリキュラムが改訂され、全国の薬学系大学では15年度から段階的にカリキュラムが変わります。これを単なるカリキュラム改訂にとどめることなく、手厚い学習支援を行い、学習力をつけることが今後の課題です。高校生には、入学後スムーズに学習に入れるような基礎学力とともに、医療職に就くのだという強いモチベーションをもって入学してほしいと心より願っています。

【学長プロフィール】わたなべ・やすひろ●1951年生まれ。千葉大学大学院博士後期課程修了。北海道薬科大学助手、講師、助教授を経て2000年教授。薬学科長、副学長を経て、2012年より現職。薬剤師。薬学博士。

【大学プロフィール】1974年開学。薬学部・薬学科（修業年限6年）。2015年、現在の小樽市桂岡から札幌市手稲区の前田キャンパスに移転予定。